

年間1ミリシートの懸念

長期目標県の強い意向だった

衆院議員、元環境相

細野豪志さん

震災10年

検証

放射線⑥

「率直に言えば、あのよう
な過酷事故は想定していな
かった。放射線の基準を含め、
いろんな面で不十分だったと
思う」。東京電力福島第1原
発事故発生当時の民主党政
権で、原発事故担当相や環境
相として復興政策の立案を手
掛けた衆院議員の細野豪志(49)
は、放射線の基準決定を巡る
内幕を語り出した。

年間20ミリシートの異論なく

細野が深く関与した基準
は、避難指示の目安となった

「年間20ミリシ」と、除染の長
期目標となった「年間1ミリシ」

の二つだ。政府は当初、原発
事故による避難を同心円状に
指示していた。その後、現地
の放射線量に基づいた避難指
示を出す方向に切り替えるこ
とになり、「原子力被災者支
援チーム」という組織をつく

り適用する基準の議論を始め
た。細野はメンバーの一人。
基礎としたのは、国際放射線
防護委員会(ICRP)の「2
007年勧告」だった。
細野は当時の状況を「原子
力安全委員会の助言も得て手
探りで基準をつくった」と語
る。ただ、チームの議論は、
避難指示を「年間20ミリシ」と

政府が決めた放射線基準

年間20ミリシートの避難指示の目安

- ICRPの勧告で、事故時の被ばく管理目安の下限
- 事故後の状況の被ばく管理目安の上限

年間1ミリシートの除染の長期目標

- 平常時の被ばく管理目安の上限と同じ
- 放射線管理区域の管理目安と同じ



放射線モニタリングの方法について説明を受ける原発事故担当相
だった細野さん(2011年7月3日、飯館村長泥)

不安の中、受け止め多様

することに異論なく落ち着い
たという。ICRPは、原発
事故のような緊急時の被ばく
管理目標の下限を20ミリシとし
ていた。原発事故後、しばら
く被ばくが続く状況の管理目
標の上限も20ミリシ。細野は「ほ
かの基準を見いだしようもな
かった」と話す。

しかし、除染の長期目標を
「年間1ミリシ」とすることに
は議論があった。細野は「長
期目標を1ミリシにすることに
は、除染を始める時の福島県
側の強い意向だった。(当時
の)佐藤雄平知事も譲らな
かった」と明かす。年間1ミリシ
は、ICRPが平常時の被ば
く管理の上限と同じ数値だ。

除染を担当する環境相だっ
た細野は、放射線の専門家
を集めた作業部会をつくり除染
についての考え方を議論し
た。放射線管理区域などの管
理目安に年間1ミリシが適用さ
れていたことなども踏まえ、
作業部会は除染の長期的な目
標を「年間1ミリシ」とするこ
とを妥当と判断した。

ただ、細野は「1ミリシを
超えると健康被害が出る」と
か、「1ミリシ以下でない」と帰
還できない」とならないか」
を懸念した。その不安は約中

した。1ミリシを巡る受け止め
は多様だった。中には科学的
ではない言説もあった。

事故を起こした立場

細野は対応策として「丁寧
に説明して分かってもら
う」と考えた。根拠のない指
摘について反論、否定するよ
うに切り替えようとも思った
が、「政府は原発事故を起
した責任ある立場。なかなか
難しかった」と明かす。

細野は「無責任にならない
よう、自分なら生活できるか、
身内のことだったらどうかと
考え基準を決めた」と振り返
る。原発事故から間もなく10
年。専門家や行政の思いとは
裏腹に、放射線を巡る議論は
今も白出している。おわり
(文中敬称略。この連載は
須田綱一、菅野篤司が担当し
ました)

みんなゆ 検索 
<https://www.minyu-net.com/>

福島民友
NEWSmart